



元気いっぱい！苅っポー



3月

No. 221

令和6年3月18日

夢と希望に向かって
努力する子ども

友達と仲良く
助け合う子ども

約束や決まりを守り
あいさつする子ども

教育実習の充実 ～将来への夢や志を育む～

毎年のように、この時期はこれまでの教育活動や自分自身の実践をふり返ります。今年度は秋の算数科の研究発表会や創立150周年記念式典等、例年より多くの行事が行われ、子どもたちも私たち教職員も充実した1年間であったことは間違いありません。

現在の学校が置かれている厳しい状況の1つに教員不足の問題があり、全国の多くの学校が悩まされている喫緊の課題であろうと思います。教員の人材確保やその育成にどう取り組んでいくのか、国や自治体の対策にも注視していく必要があります。

では、学校現場においては何ができるのだろうかと考えます。様々あるでしょうが、私は、「**教育実習の充実**」がその1つであると考えます。教師をめざす学生は教育実習生として学校で3～4週間程度、教育活動を行います。教師という仕事の責任の重さと大変さを感じるでしょうが、それ以上に教師のやり甲斐や魅力を実感できる実習であれば、教員志望の学生が増えるのではないのでしょうか。教師という職業が若者にとって魅力ある仕事として映るよう、現場の私たちができることに精一杯取り組むことが求められます。

学校は、ブラック企業のように言われることがあります。本当にそうなのでしょうか？

仕事の対価として賃金をいただく以上、楽な職種はないと思います。仕事は忙しく苦勞が伴うものです。確かに現在の学校には様々な教育課題や多くの業務等があり、ゆとりがないことは現実です。しかし、本来、**学校は楽しいところ**です。(私はそう信じています)



子どもたちは授業や行事等を通しての新しい知識の習得や豊かな体験から、自分自身を成長させます。また、友だちと一緒に活動しながら社会性や協調性、公共心等を身につけていくことができます。

学校は将来への夢や志を育むきっかけができる場であると私は考えます。それを支える教職員が力を発揮できる、働きやすい職場や環境にむけて、創意工夫が今、求められているのです。働き方改革に取り組むこともその1つです。子どもの成長・進歩に必要な指導や支援を行うにあたり、手間を掛けることを惜しむ教師はいないのでから…。